

明治三十三年三月

農事試驗場特別報告 第六號

本邦産昆虫卵寄生蜂圖說 第一集

農商務省農事試驗場



本號載スル所ハ農事試驗場技手中川久知カ本邦産昆虫卵寄生蜂  
ニ就テ研究調査セル第一次成績ニ係ル

明治三十三年三月

農商務省農事試驗場

本邦産 昆虫卵寄生蜂圖說 第一集

目次

緒言

調査ノ方法

部分ノ名稱

各論

- (一) あかあしくさがめたまごばち
- (二) くろもろくさがめたまごばち
- (三) ずねむしくろたまごばち
- (四) くらあしくさがめたまごばち
- (五) はらながあぶたまごばち
- (六) こぶだかあぶたまごばち
- (七) ずねむしあかたまごばち

引用書目

壹	丁
四	丁
五	丁
十二	丁
全	丁
十四	丁
十五	丁
十七	丁
十九	丁
二十一	丁
二十三	丁
二十五	丁



本邦 昆虫卵寄生蜂圖說 第一集

農事試驗場技手 中川久知 調査

○緒言

夫レ動物ハ世ニ生レテヨリ順次生長シ遂ニ老衰シテ死ニ就キ其天壽ヲ保ツモノハ却テ少ナク其多數ハ氣候、食物等外圍ノ状態ニヨリテ營養ニ不足ヲ告ケ或ハ病患ニ侵サレ殊ニ昆虫ノ如キ小形ノモノハ鳥獸ノ食トナリ或ハ他ノ虫類ノ餌トナリ或ハ寄生虫ノ爲メニ害セラル、等外患絶ユルコトナク非命ノ死ヲ遂クルモノ常ニ十中ノ八九ニシテ唯僥倖ナルモノ、ミ僅ニ其禍ヲ免ル、ヲ得故ニ昆虫ハ高等動物ニ比スレハ産卵ノ數頗ル多ク漸ク此夭折ヲ償ヒテ種屬ノ滅亡ヲ防クヲ得ルノミ斯ク外患ノ多キハ昆虫ノ一身ニ於テハ極メテ不幸ナルカ如シト雖モ汎ク動物界ヲ達觀スルトキハ自然ノ配劑頗ル微妙ニシテ萬物ノ間ニ最モ緻密ナル關係ヲ保チ同時ニ彼此相制シテ相互ノ平均ヲ維持シ一種ノ動物ヲシテ專横ヲ極ムルコト能ハサラシム故ニ吾人ノ一舉手、一投足ハ一トシテ此等自然界ノ平均ニ關係ヲ及ホサ、ルハナク動モスレハ一利ヲ興サントシテ一害隨テ起リ甚シキハ其害ノ至ル所其利ニ倍スルコトアリ往年印度洋ニ孤立スル「マダガスカル」ト稱スル嶋國ニ於テ一種ノ鳥アリテ穀物ヲ啄食スルヲ見其害ヲ豫想シテ該鳥ヲ捕殺セシメタリシニ其結果ハ終ニ全島ヲ擧テ害虫ノ繁殖ヲ見ルニ至リ其害ハ遙ニ鳥害ニ優レリト云フ又近時西印度諸島ニ於テ甘蔗ノ鼠害ヲ防カントシテ東印度ニ産スル一種ノ食肉獸ヲ輸入セシニ食物豊富ナルヲ以テ該獸大ニ蕃殖シ數年ナラスシテ鼠害大ニ滅シ當時嶋民ハ策ノ當ヲ得タルモノトシ得々トシテ喜色アリシモ更ニ數年ヲ出テスシテ鼠族、石龍子其他ノ爬行類ハ論ヲ俟タス地上ニ營巢スル鳥類ノ卵ニ至ルマテ皆新ニ輸入シタル食肉獸ノ食餌タラサルハナク爲メニ害虫大ニ發生シテ虫

害ハ鼠害ニ倍スルニ至リ、曩ニ得色ヲ現シタル島民ハ遽ニ豫防ノ策ヲ講究シ是迄親愛ナル友情ヲ以テ待  
 遇シタル食肉獸ヲ俄然仇敵ノ如ク處置スルノ止ヲ得サルニ至レリ然レトモ一旦全嶋ニ蔓延シタル後ナ  
 ルヲ以テ如何ナル手段ヲ施スモ撲滅ノ効ヲ奏スルコト能ハス途ニ拱手シテ自然ノ結果ヲ待ツニ至レリ  
 此二例ハ吾人カ猥リニ自然界ニ干渉スルノ不利ナルヲ示ス適例ニシテ苟クモ農界ニ於テ利用厚生ノ途  
 ヲ計ラント欲セハ先ツ天然物相互ノ關係ヲ調査シ其關係ノ及フ所ヲ明知スルノ域ニ達シ然ル後相當ノ  
 處置ヲ施ストキハ蓋シ眞理ニ適合シタル良策ヲ得ルニ至ラン

寄生トハ一ノ生物カ其養料ヲ他ノ有機體ニ仰クノ謂ニシテ椎茸ノ朽木ニ生スル、菟絲子ノ灌木ニ附着  
 シテ其養液ヲ吸奪スル、條虫ノ人腸ニ寄生スル、蚊虻ノ人蓄ヲ刺螫シテ血液ヲ吸收スル、蛆ノ蚕體ニ  
 寄生スルカ如キ皆寄生ナラサルハナシ然レトモ詳細ニ其狀態ヲ區別スルトキハ二様ノ大別アルヤ明ニ  
 シテ即チ一ハ死體ニ寄生シ一ハ生體ニ寄生スルコト是ナリ椎茸ハ樹木ノ腐朽シタル部分ニ其菌糸ヲ張  
 リ以テ養料ヲ取ルモ菟絲子、條虫、蚊、虻、蚕蛆ハ生活力ノ旺盛ナル植物、動物ニ寄生スルヲ以テ其  
 趣大ニ異ル所アリ又生物ニ寄生スルニ方リ其體ノ外面ニ寄生スルト内部ニ寄生スルトノ別アリ菟絲  
 子、蚊、虻ノ寄生ハ體外寄生ノ例ニシテ條虫、蚕蛆ハ體內寄生ノ例トス又生活中一時寄生スルモノト  
 終身寄生スルモノトノ別アリ或ハ又一見寄生ノ如キ觀ヲ呈スルモ其實相互ノ間ニ扶助スル所アリテ兩  
 者相離ルヘカラサルモノアリ地衣ハ其適例ニシテ一種ノ菌ト一種ノ藻ト共同ニ生活スル植物ナリ今試  
 ニ銳利ナル刀ヲ以テ地衣體ヲ薄ク削リ顯微鏡ニ照ストキハ無色透明ナル糸狀ノモノト珠數狀若クハ塊  
 狀ニ集合シタル綠色ノ球體ヨリ成ルヲ見ン甲ハ即チ菌糸ニシテ乙ハ下等ノ藻類ナリ而シテ菌糸ハ此藻  
 類ヲ被包シテ乾涸ヲ防キ藻類ハ無機物ヲ同化シテ其一部ヲ菌類ニ配與シ互ニ相利シテ生計ヲ營爲ス之  
 ヲ共棲ト云ヒテ寄生ト區別ス何トナレハ寄生ノ場合ニ於テハ一方ハ己レノ養料ヲ奪ハレ自體ニ損害ア  
 ルヲ以テナリ而シテ斯ク養料ヲ奪ハル、モノハ寄生者ニ對シテ宿主ト稱ス以上述フルカ如ク寄生ニハ

種々ノ別アリテ其種別ニ應シテ寄生者ト宿主トノ間ニ利害ノ關係異ル所アレハ寄生虫ヲ研究スルニ方  
リ其寄生ノ方法ヲ熟察スルコト最モ肝要ナリトス

凡ソ寄生蜂ト稱スルモノハ汎キ意義ニ於テハ他ノ生物ニ養料ヲ仰ク蜂類ノ總稱ニシテ其宿主ハ植物ナ  
ルコトアリ動物ナルコトアリ故ニ其宿主タルモノ吾人ニ有益ナルトキハ寄生蜂ハ吾人ノ害虫ニシテ然  
ラサルトキハ益虫(害虫ノ敵虫)ナリトス而シテ昆虫ニ寄生スルモノ、中ニハ卵ニ寄生スルモノアリ  
幼虫若クハ蛹ニ寄生スルモノアリ成虫ト雖モ決シテ寄生ノ害ナキニアラサントモ卵期、幼虫期、蛹期  
ニ比スレハ稀少ナルカ如シ又寄生蜂ヲ調査スルニ方リ往々一種ノ宿主ヨリ二種以上ノ寄生蜂ヲ出スコ  
トアリ然ルトキハ此等ハ皆直接ニ其宿主ニ寄生シタルモノナルヤ或ハ其宿主ニ寄生シタル蜂ニ寄生シ  
タルモノナルヤ精細ノ調査ヲナスコト必要ナリ時トシテハ第一ノ寄生蜂ニ第二ノ寄生蜂ヲ生シ又第二  
ノ寄生蜂ニ第三ノ寄生蜂ヲ生スルコトアリ斯クノ如キ場合ニアリテ本來ノ宿主タル昆虫カ害虫ナルト  
キハ第一ノ寄生蜂ハ益虫ニシテ第二ノ寄生蜂ハ害虫又第三ノ寄生蜂ハ益虫ナルヤ論ヲ俟タス

今ヤ害虫ノ問題ハ漸ク全國ニ亘リ各府縣ノ農事試驗場亦漸ク害虫ノ調査ニ從事セントシ加フルニ民間  
ノ篤志者中ニハ私財ヲ投シテ其研究ヲ企ツルモノアリ本場ニ於テモ客歲昆虫部ヲ設置シ主トシテ害虫  
ノ發生、經過ヲ調査シ其驅除、豫防ノ方法ヲ講スルコトヲ力メ小官亦益虫(害虫ノ敵虫)調査ノ事項  
ヲ擔當スルヲ以テ就職已來害虫飼育ノ傍ラ昆虫相互ノ關係ヲ觀察シテ益虫ノ利用ヲ計ルト雖モ日尙ホ  
淺ク僅ニ其緒ニ就キタルニ過キス然レトモ當時本邦ニ於テ昆虫ニ關スル一般ノ知識ヲ願ルニ未タ普及  
ノ域ニ達セサルノミナラス成書若クハ雜誌中昆虫ノ種屬ヲ明記シタルモノスラ極メテ少ナク當業者ニ  
シテ假令昆虫ヲ目撃スルモ其何タルヲ辨知スルニ足ルヘキ邦語ノ參考書ニ乏シキ時期ナルヲ以テ先ツ  
害虫ニ對シ最モ直接ノ敵害タル昆虫卵ノ寄生蜂ヲ調査シ篇ヲ追ヒテ本書ニ掲載セントス尤モ茲ニ記ス  
所ノモノハ悉ク害虫ノ卵ニ寄生スルモノニアラスト雖モ稻田、菜園ニ住シ且分類上其所屬ヲ同フスル



ヲ以テ辨識上ノ便利ヲ計リ害虫卵ノ寄生蜂ト共ニ掲クルコト、セリ小官素ヨリ淺學寡聞、加フルニ觀察ノ疎漏殊ニ描寫ノ術ニ拙ナルハ最モ慚愧ノ至ニ堪ヘスト雖モ倘シ幸ニ斯道ノ參考ニ供スルヲ得ハ小官ノ光榮之ニ過クルモノナシ

### ○調査ノ方法

材料ノ蒐集 専ラ田圃ニ就テ虫卵ヲ搜索シ之ヲ破璃管ニ收メ綿ヲ以テ栓塞シ空氣ノ流通ヲ妨ケサル様ニ注意シ虫卵ノ孵化ヲ待ツ間ニ寄生蜂ニ罹リタルモノハ蜂ハ羽化シテ卵ヲ出ツ玆ニ於テ別管ニ寄生蜂ヲ移セリ

保存 別管ニ分ケタル寄生蜂ニ酒精ヲ注キ其儘保存セリ

解剖 酒精中ニ貯藏シタル蜂ハ堅硬ニシテ且收縮スルヲ以テ口部ノ機關ヲ取り去ルニハ先ツ清水ヲ徑二三寸ノ蒸發皿ニ盛リ苛性加里ノ飽和溶液凡ソ十滴ヲ注キ材料ヲ投シテ文火上ニ温ムルコト一二時ニシテ暫時放置シ更ニ其材料ヲ採リテ清水ニ投シ放置ス但シ夏月ニアリテハ久シク水中ニ貯フルトキハ腐敗ノ恐アルヲ以テ一夜ヲ過キササル様ニ注意ス胸部ノ部分、腹部ノ環節ヲ分離スルニモ亦全様ニ處理シタリ而シテ解剖セントスルトキハ硝子板上ニ紙片ヲ敷キ水ヲ滴下シ材料ヲ其中ニ投シ解剖顯微鏡ニ上セ針頭ヲ以テ剖見セリ極メテ小形ナル種類ニ於テハ往々苛性加里ヲ用ヒスシテ唯熱湯ヲ注クニ止メタルコトアリ

身體ノ大サヲ計ル事 酒精ニテ貯ヘタル材料ハ往々收縮スルヲ以テ温湯ニ浸シ軟化スルヲ待テ身體ヲ一直線ニ伸長シ曲尺上ニ置キ廓大鏡ヲ用ヒテ體長ヲ計リタリ尤モ小形ノモノニ至テハ「ミクロメーター」ニ載セ顯微鏡下ニテ視察セリ但シ產卵器ノ後方ニ挺出スルモノアルトキハ注意シテ其長サヲ體長ニ加ヘサル様ニス又開張ヲ計ルニハ温湯ニテ軟化シテ材料ヲ仰向キニ被覆硝子上ニ置キ解剖顯微鏡下ニテ針ヲ用ヒテ能ク其兩翅ヲ開展シ被覆硝子ト共ニ曲尺上ニ載セ兩翅端ノ間ノ距離ヲ計レリ

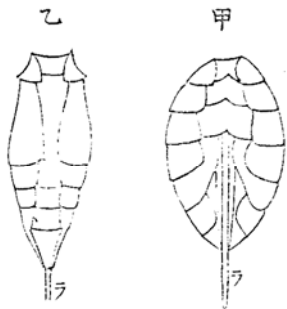
製圖 寫生ハ總テ「カメラ」ヲ用ヒテ描寫ス顯微鏡ハ「チャイス」製ノモノヲ使用シ必ス倍數ヲ付記ス口部ノ諸機關ハ必ス苛性加里ニテ處理シタル材料ニヨリ觸角及身軀ノ紋理ハ或ハ苛性加里ノ溶液ニ投シタル材料ヲ用ヒ或ハ單ニ微温湯ニ浸シタルモノヲ用ヒ強テ一定ヲ期セサリシ然レトモ肢及翅ハ微温湯ニ浸シタルモノ或ハ酒精中ヨリ取出シタル材料ヲ其儘使用セリ

因ニ云、身軀ノ外面ニ存スル紋理ハ往々微細ニシテ強度ノ顯微鏡ヲ籍ラサレハ諦視シ難キモノアリ此等ハ豫メ強度ノ顯微鏡ニテ寫生ヲ試ミ更ニ縮小シテ全體圖ニ加ヘタリ故ニ全體圖ヲ描寫シタル廓大ノ度ニ於テハ實際圖ニ示スカ如ク判然其紋理ヲ認知シ難キコトアリ

○部分ノ名稱 (用語ノ解釋) 付原語譯語對照表

昆虫卵寄生蜂ハ膜翅類ノ目ニ隸シ概テ卵蜂科 (Proctotrupinae) 及小蜂科 (Malcidinae) ノ二科ニ屬スルモ就中前科ニ收ムヘキモノ多キカ如シ今此兩科ノ別ヲ說カンニ小蜂科ニ於テハ前胸ハ前翅ノ基部ニ達セス又雌ノ產卵器ハ腹部ノ腹面ヨリ突出シ此部ハ縱溝ヲナシ溝底ニ產卵器ノ基部ヲ安置スレトモ卵蜂科ニ於テハ前胸ハ前翅ノ基部ニ達シ雌ノ產卵器ハ腹部ノ後端ヨリ挺出ス

第一圖 小蜂類ト卵蜂類ノ產卵器ノ起點ヲ比較ス



(甲) 小蜂類ノ腹部ノ腹面  
(乙) 卵蜂類ノ腹部ノ腹面  
(ラ) 產卵器

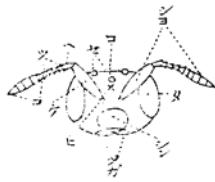
凡ソ寄生蜂ノ類ハ雌雄ノ數大ニ異リ雄ハ雌ニ比シテ稀少ナルヲ常トス故ニ其形狀ヲ記スルニハ雌ヲ標準トスルヲ便ナリトス本調査ニ於テハ主トシテ雌ノ形狀ヲ記述シ末尾ニ雄ノ雌ト相異ル點ヲ付記セリ

昆虫卵寄生蜂ハ他ノ昆虫ノ如ク全軀ハ頭、胸、腹ノ三部分ニ分ル、モ腹部ノ第一環節ハ後胸ニ癒着シ以テ胸部ノ構成ニ加ハレリ記述ニハ此部ヲ分離スルコトナク

胸部ノ一部トセリ又腹部ノ前端ニシテ胸部ト相繋カル所ニ短小ナル柄アルモ腹部ヲ取除クニアラサレハ認知シ難キモノニ於テハ無柄ト稱ス是レ泰西諸大家ノ記載法ヲ襲用スルニ由ル

頭部ハ其形ニ依リテ名狀ス其前後徑遙ニ左右徑ヨリ小ナルトキハ横位ヲナスモノトシ兩徑殆ント相等ク殊ニ四角形ニ近キトキハ方形ト云フカ如シ頭部中、背面ニ顯レ最高キ所ヲ顛頂ト稱シ其後方ニ位スル部分ヲ後頭ト名ク頭部ノ左右ニ凸出シタル眼ヲ大眼トシ其間ニ位スル小サキ眼ヲ小眼ト名ケ其數三アリ今線ヲ畫キテ此三小眼ヲ連繋スルトキハ通常三角形ヲナセトモ種屬ニヨリテ三角ノ高サ大ニ異リ又側位ノ小眼ト大眼ト密接スルモノアリ或ハ多少隔絶スルモノアリ是レ分類上注意スヘキ要點ニ屬ス頭部ノ前方ニ向ヒタル部分中、上部ヲ額ト稱シ下部ヲ唇基板(又頭楯)ト稱ス通常半環狀ノ溝アリテ唇基板ヲ劃セリ

頭部ニハ二個ノ角アリ之ヲ觸角ト稱シ其起點ヲ明記スルヲ要ス例セハ觸角ノ位置唇基板上ニ在ルトキハ觸角ハ唇基板ニ起ルト云フカ如シ觸角中更ニ部ヲ分チ各部ニ名稱ヲ付ス是レ觸角ノ形狀ハ屬種ヲ判スル最モ重要ナル標準ナレハナリ觸角ノ基部ニ位スル一節ハ通常長クシテ植物ノ莖狀ヲナスヲ以テ莖部ト名ケ其先キニ位スル部ヲ鞭狀部ト總稱ス(或ハ又莖部、柄節、鞭狀部ノ三部ニ分ツ)鞭狀部中、初位ノ一節ハ通常次位ノモノト其形ヲ異ニシ恰モ爾餘ノ環節ヲ支持スルカ



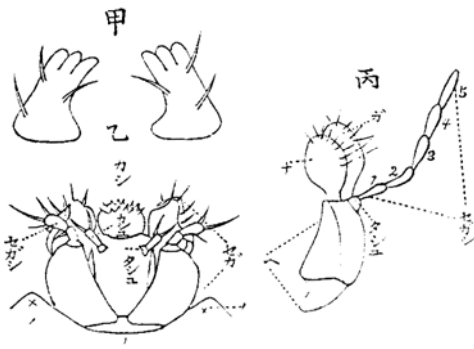
- (コ) 觸頂
- (ケ) 大眼
- (カ) 小眼
- (ク) 額
- (コ) 額頂
- (ケ) 額
- (カ) 小眼
- (ク) 唇基板
- 棍棒狀部
- 莖部
- 鞭狀部
- 上頭

如キ觀アルヲ以テ柄節ト稱シ鞭狀部ノ末端ハ數節相合シテ棍棒狀ヲナスモノ多シ然ルトキハ此部ヲ棍棒狀部ト稱シ之ヲ形成スル環節ノ數ヲ記スルヲ要ス又棍棒狀部ト柄節ノ間ニ位スル數節ハ繫節ト稱シ

各節相互ノ比較及柄節トノ比較ヲ要ス

口器ハ一對ノ上顎、一對ノ下顎、一個ノ下唇ヨリ成リ上顎ハ骨質ニシテ左右相會シ物ヲ嚙ムヲ得ヘシ其

第參圖 口器ヲ示ス



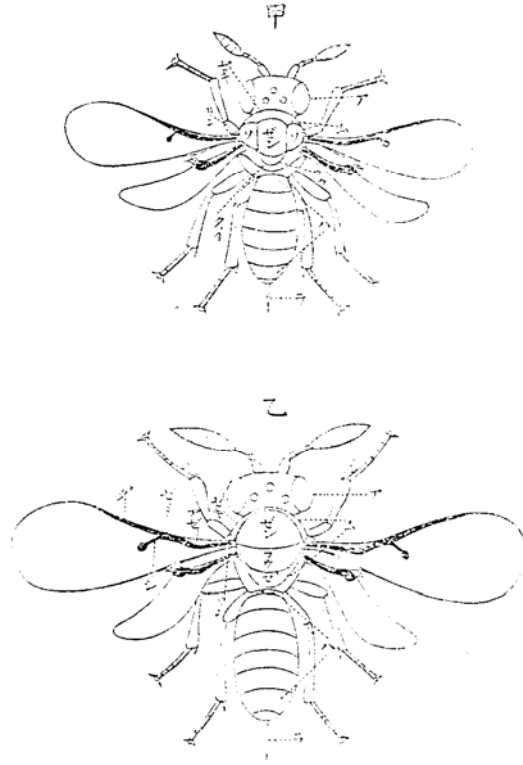
- (甲) 上顎(三齒ヲ示ス)
- (乙) 下顎及下唇
- (丙) 下顎ニ硬質葉狀ノモノニ葉アルモノヲ示ス
- (セガ) 下顎 (セガシ) 下顎葉 (カシ) 下唇
- (カシユ) 下唇葉 (タシユ) 擔架體 (ヘ) 柄部
- (ナ) 内葉 (ガ) 外葉 (1)(2)(3)(4)(5) 下顎葉第一節乃至第五節

モ注意ヲ要スルハ鬚ノ起點ニ位スル柄部ノ一部ヲ節數ニ加ヘサルコトニシテ此部ハ往々伸長シテ鬚根ニ一節アルカ如キ觀ヲ呈スルコトアリ苛性加里ニテ處理シタル材料ニ於テ殊ニ然リトス然レトモ此部ハ擔架體ト稱シテ下顎鬚ト區別ス下唇ハ前ニ述フルカ如ク下顎ノ間ニ夾マリ又稍々硬キ柄部ト匙狀ナル膜質部ヨリ成ル後者ハ舌ト稱シ齒又ハ短毛ヲ密生シテ食物ヲ舐食スルニ適ス下唇ノ柄部ニ鬚アリ下唇鬚ト名ク其節數ハ下顎鬚ト同シク分類上重要ナル徵候ノ一ナリ其節數ヲ算スルニ方リテモ下顎鬚ニ

末端ハ往々缺刻ヲ具ヘ多少鋸齒狀ヲナス其齒數ハ屬ヲ判スル一徵候トス下顎ハ柔軟ニシテ下唇ノ左右ニ位シ其下半ハ少シク硬質ヲ帶ヒ柄部ト稱ス柄部ノ外上方ニ鬚アリ下顎鬚ト名ケ内上方ニハ膜質ナル葉狀體二個アルヲ常トス然ルトキハ其位置ニヨリテ内葉、外葉ト稱ス但シ昆虫卵寄生蜂ニ於テハ一葉ノモノ多キカ如シ下顎鬚ノ節數ハ亞科ヲ判スル重要ナル標準ノ一タリ茲ニ最

於ケルト同一ノ注意ヲ要ス

第四圖 小蜂類ト卵蜂類ノ胸部ヲ比較ス



- (ア)(甲) 小蜂類ノ模式圖
- (ア) 頭部
- (ム) 胸部
- (ハ)(乙) 卵蜂類ノ模式圖
- (ハ) 腹部
- (ゼ) 前
- (ゼ) 前
- (コウ) 胸ノ背板
- (ゼン) 中胸ノ前板
- (ソ) 側葉
- (コウ) 中胸ノ後板
- (ゼ) 後胸ノ後板
- (タイ) 帶
- 狀部
- (アゼ) 亞前脈
- (ゼミ) 前脈
- (シ) 枝
- 脈
- (ゾ) 外脈
- (ラ) 産卵器
- (リン) 環狀板

胸部ハ前胸、中胸、後胸ノ三部ヨリ成ルモ相互ニ癒着シテ各部ノ間ニ運動ヲ許サス此三部中前胸、後胸ハ發達微弱ニシテ胸部背面ノ大半ハ中胸ヲ以テ充セリ是レ中胸ニハ大翅アルヲ以テ翅ヲ動カス所ノ筋肉モ亦大ニ發達スレハナリ凡ソ昆虫ハ環狀部前後相聯リテ其體ヲ形成スルモノニシテ環狀部ヲ環節

ト名ケ前胸、中胸ノ如キハ皆一個ノ環節ヨリ成ル抑々環節ニハ背部、側部、胸部ノ三部アリテ各部ハ特別ナル骨質板ヨリ成ルヲ常トシ翅アルモノハ背部ト側部ノ間ヨリ生シ肢ハ側部ト胸部ノ間ヨリ出ツ背部ハ背板(背弓)ト稱シ側部ハ側板(側弓)ト名ケ胸部ハ腹板(腹弓)ト云フ背板ハ元來三個ノ横溝ニヨリテ前後四小片ニ分ル、モノニシテ其最前部ヲ最前板、次ヲ前板、次ヲ後板、最後ヲ最後板ト稱ス然レトモ此四部完備シテ外面ヨリ見ルヘキモノハ極メテ少ナク唯前板ト後板ノミヲ認知シ得ヘキモノ多シ今昆虫卵寄生蜂ニ就テ云フトキハ胸部中最モ發達シタル中胸ハ其背面一溝ニヨリテ前後ノ二部ニ分レ前部ハ即チ前板ニシテ後部ハ後板ナリ而シテ種類ニヨリテハ前板ハ二個ノ縦溝ニヨリテ三區ニ分レ其左右兩區ハ特ニ側葉ノ名ヲ有ス後板ハ其形一定セザレトモ半圓形ノモノ多キニ似タリ後胸ハ前ニ述フルカ如ク腹部ノ第一環節ヲ包含シ真正ノ後胸ハ中胸後板ノ後縁ニ沿フ所ノ狭キ一帯ヲナスニ過キス此部ヲ帶狀部トシ其中央ニ位スル一區ヲ後胸ノ後板トス

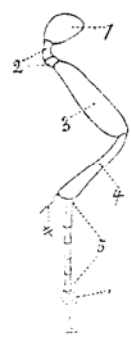
翅ハ中胸、後胸ヨリ生シ中胸ヨリ生スルモノヲ前翅トシ後胸ヨリ生スルモノヲ後翅トス前翅ハ後翅ニ比シテ大形ナルヲ常トシ其根基ニ杯狀ノ小板アリ之ヲ鱗狀板ト名ク翅脈ハ一般ノ寄生蜂ニ於テ其分布ノ繁閑大ニ異ルヲ見ルモ昆虫卵寄生蜂ニアリテハ極メテ簡單ニシテ翅根ヨリ生シ翅ノ前縁ヨリ少シク後方ニ於テ外方ニ走り進ンテ前縁ニ達シ更ニ前縁ニ沿ヒテ外方ニ走ル其途中一枝ヲ分チ枝ノ末端ハ通常圓形ヲナス翅根ヨリ翅ノ前縁ニ達スル迄ノ部分ヲ亞前脈トシ前縁ニ達シタル部ヨリ分枝點マテヲ前脈トシ夫ヨリ先キヲ外脈ト名ケ枝ヲ枝脈ト稱シ枝ノ末端圓形ヲナストキハ其圓形部ニ結節ノ名ヲ命セリ此等諸部ノ長短比較ハ又分類上重要ナル徵候トス後翅ハ其脈狀前翅ヨリモ一層簡單ニシテ前脈ハ膨大シ玆ニ二三ノ鈎ヲ具ヘ前翅ノ後縁ニ位スル一帯ノ硬質部ニ懸リ前後兩翅ハ恰モ一翅ノ如ク同時ニ開閉スルヲ得ヘシ但シ翅ノ脈ハ往々小形種ニアリテハ全ク闕如スルコトアリ

肢ハ三双アリテ前、中、後胸ヨリ各一雙ヲ生ス前胸ニアルモノヲ前肢トシ中胸ニアルモノヲ中肢ト

ジ後胸ニ在ルモノヲ後肢ト云フ肢ハ一般ノ昆虫ニアリテハ五節ヨリ成リ第一節ハ短クシテ本體ニ接シ基節ノ名アリ次ニ位スルモノ又短ク往々第三ノ節ト癒合シテ其基部ヲ形成スルコトアリ此節ヲ廻轉節ト名ク次位ノモノハ長大ニシテ吾人ノ腿ニ彷彿タルヲ以テ腿節トシ次ハ又長大ニシテ腿節ト膝狀ノ關節ヲナシ吾人ノ脛ニ類似スルヲ以テ脛節ト稱シ其次ハ虫ノ歩行スルニ方リ地ニ密着スルコト吾人ノ足ノ如クナルヲ以テ跗節(又足節)ト名ク此部ハ通常五個ノ小節ニ分ルレトモ末位ノ一二節短縮シテ五節ニ充タサルコトアリ跗節ノ末位ニハ一爪ノ爪ヲ具ヘ又爪下ニ一葉ノ付屬物ヲ有ス此付屬物ヲ膜瓣ト名ケ外物ニ付着スルノ用アリ昆虫卵ノ寄生蜂ニ於テハ廻轉節ハ往々二節ニ分ル、ヲ以テ他ノ多數ノ昆虫ト異リトス凡ソ肢ノ大サト全體ノ比較、肢ノ諸節中相互ノ比較、跗節ヲ形成スル小節ノ數、脛節ノ末端ニ位スル棘ノ狀態等ハ分類上最モ注意スヘキ要點ナリトス

腹部ハ其形狀ノ如何、胸部ト相繋カル所ニ柄アリヤ否ヤ、環節中特異ナル形質ヲ有スルモノアリヤ否

第五圖 肢ノ部分ヲ示ス



(1) 基節 (2) 同轉節 (3) 脛節  
 (4) 脛節 (5) 跗節 (キ) 脛節ノ棘  
 (ツ) 爪 (ニ) 膜瓣

トシ後端ヲ末端トスルコトヲ忘ルヘカラス今茲ニ腹部卵圓形ヲナスト云フトキハ其幅ノ最モ濶キ部分ハ腹部ノ中央ヨリモ前ニ在ルヲ以テ一見倒卵形ナルカ如キモ能ク其本末ヲ考究スルトキハ卵圓形ナルコト明ナリ

凡ソ虫體ノ彩色、紋理ハ種ヲ判スルニ必要ナルヲ以テ各部遺漏ナキ様觀察シテ記載スルヲ要ス殊ニ卵蜂科ニ屬スルモノ、如キハ概子身體黑色ヲ呈シ鑲光ヲ發セス皆同一ノ色澤ヲ有スルヲ以テカメテ肢、

ヤ等ハ記載上重要ナル觀察事項ナリトス其產卵器ノ起點ノ如キハ科目ヲ判スルニ重要ナルヲ以テ第一着ニ調査スヘキハ勿論ナリ而シテ腹部ノ形ヲ名狀スルニ當リ胸部ト相連ル所ヲ腹部ノ基底

觸角等ノ彩色ヲ詳細ニ記スルコト肝要ナリ又頭部、胸部ニハ往々緻密ナル紋理アリテ強力ノ顯微鏡ヲ施用スルニアラサレハ知悉スルコト難キモノアリ其紋理ニ就テ一二ノ例ヲ舉レハ網狀ノ溝アリテ網眼高キモノアリ網狀ノ隆起線アリテ網眼凹ミタルモノアリ或ハ針頭ヲ以テ刺シタルカ如キ小孔ヲ密布スルモノアリ然ルトキハ其紋理ヲ針痕ト稱ス

原語譯語對照表

無柄	Sessile.	繫節	Pedicellar segment.
頭部	Head.	上顎	Mandible.
橫位	Transverse.	下顎	Maxilla.
方形	Quadrate.	下唇	Labium.
顛頂	Vertex.	下顎鬚	Maxillary palpus.
後頭	Occiput.	內葉	Lacinia.
大眼	Eye.	外葉	Galea.
小眼	Ocellus.	擔鬚體	Palpiger.
額	Frons.	下唇鬚	Labial palpus.
唇基板	Glypeus.	胸部	Thorax.
觸角	Antenna.	前胸	Pro-thorax.
莖節	Scape.	中胸	Meso-thorax.
鞭狀部	Flagellum.	後胸	Meta-thorax.
柄節	Pedicel.	背板	Pterum.
棍棒狀部	Club.	側板	Pleurum.



- 腹板 Sternum.
- 最前板 Prae-scutum.
- 前板 Scutum.
- 後板 Scutellum.
- 最後板 Post-scutellum.
- 前胸ノ背板 Pro-notum.
- 中胸ノ前板 Meso-scutum.
- 側葉 Parapside.
- 中胸ノ後板 Meso-scutellum.
- 後胸ノ後板 Meta-scutellum.
- 帶狀部 Frenulum.
- 前翅 Fore-wing.
- 後翅 Hind-wing.
- 鱗狀板 Tegula.
- 亞前脉 Subcostal(Submarginal)vein.
- 前脉 Costal(Marginal)vein.
- 枝脉 Stigmal vein.
- 結節 Knob.
- 外脉 Post-marginal vein.
- 前肢 Fore-leg.
- 中肢 Mid-leg.
- 後肢 Hind-leg.
- 基節 Coxa.
- 回轉節 Trochanter.
- 腿節 Femur.
- 脛節 Tibia.
- 跗節 Tarsus.
- 膜瓣 Palpus.
- 腹部 Abdomen.
- 針痕 Puncture.

○各論

(一) あかあしくさがめたまごばち

學名 Palaemonus sp.

分科 卵蜂科

宿主 椿象卵

(新稱) 第一板、第二板、第三板、第四板、第五板、第七板、共ニ第一圖

產地 東京西ヶ原

體長 十 三厘

↓ 殆ント同上

(雌)

頭部 横位ヲナシ少シク胸部ヨリ幅廣ク不正多角形ノ網眼ヲ包有スル網狀ノ溝ヲ具ヘ黑色ニシテ光澤アリ毛ヲ疎生ス大眼橢圓形ニシテ細毛ヲ生シ小眼三個ハ低キ三角狀ニ排列シ其側位ニアルモノハ大眼ノ内側ニ接ス

觸角 十一節ヨリ成リ唇基板ノ正中線ニ位スル隆起線ノ左右兩側ニ起リ莖節ノ全部ト柄節ノ末端ハ黄褐色ナルモ其他ハ總テ黑色ヲ呈シ莖節ハ中位ノ小眼ニ達シ柄節ト第一ノ繫節ハ同長、第二繫節ハ第一ノモノヨリ短ク第三ハ第二ニ比シテ短ク第四ハ球形ヲナス次位ノ五節ハ判然タル棍棒狀ヲナシ其末節ハ圓錐形ヲナス

口器 上顎ノ末端ハ三裂シテ三齒ヲナシ下顎鬚ハ二節ヨリ成リ下唇鬚ハ一節ヨリ成ル

胸部 倒卵形黑色ニシテ光澤アリ細毛ヲ密生ス前胸ノ背板ハ中胸前板ノ兩側ニ位スル極メテ狹隘ニシテ縁狀ナル部分ノ外、背面ヨリ見ルコト難シ中胸前板ハ細微ナル針痕ヲ印シ中胸後板ハ疎大ナル針痕ヲ有ス中胸後板ハ半圓形ニシテ其周圍ニ沿ヒテ放線狀ノ溝アリ後胸ハ又細微ナル針痕ヲ有セリ翅 黒暈ヲ帶ヒ前脈ハ短クシテ枝脈ノ三分一ヨリ微ニ大ナルノミ外脈ハ長クシテ漸次ニ消失シ外縁ノ毛ハ寧ロ短シ

肢 尋常ニシテ跗節ハ中肢ヲ除キ脛節ヨリモ長ク基節ト跗節ノ末節ヲ除キ黄褐色ヲ呈ス但シ前肢ニ於テハ跗節ノ第三、第四節モ亦着色ヲ異ニス基節ハ三肢共ニ暗色ヲ帶フルモ前肢ノモノハ其色最モ濃ク後肢ノモノハ其後側ニ於テ最モ濃シ跗節ノ末節及前肢ノ跗節ノ第三、第四節ハ又暗色ヲ帶フ前

肢ノ脛節ノ末梢ニ近ク其内方ニ大棘アリ跗節ノ第一節ニ向テ弧狀ニ曲リ末端又分シ跗節ノ第一節ニ於テハ此棘ニ對スル部分ハ著シク弧狀ニ凹ミ玆ニ毛ヲ櫛狀ニ列生ス中肢、後肢ノ脛節ニ位スル棘ハ前肢ノモノニ比シテ發達微弱且簡單ナリ而シテ後肢ノ棘ハ其上側ニ短小ナル副棘ヲ有ス

腹部 無柄ニシテ黑色光澤アリ毛ヲ疎生シ倒卵形ニシテ後端ハ恰モ斷切シタルカ如シ第二環節ハ腹部諸環節中最モ長大ナルモノニシテ全部ノ殆ント五分ノ四ヲ占メ其長徑ハ横徑ニ超過シ第一環節ト第二環節ノ前縁ニ沿ヒテ縱溝ヲ有ス

(雄)

體形、着色共ニ雌ト區別スルコト難シ唯觸角ニ於テ雌ト大ニ異ル所ヲ見ルノミ雄ノ觸角ハ末端棍棒狀ヲナス十二節ヨリ成リ其柄節ト其次ニ位スル三個ノ繫節ハ其長サ相均シク次位ノ諸節ハ珠數狀ニ相連リ末節最モ長シ

(二)

くろもくくさがめたまごばち (新稱)

第一板、第二板、第三板、第四板、第五板、第六板、共ニ第二圖

學名 *Tetanus* sp.

分科 卵蜂科

宿主 椿象卵

產地 東京西ヶ原

體長 十 三・八厘乃至三・九厘

↑ 闕ク

(雌)

頭部 横位ヲナシ胸部ノ最モ闊大ナル部ト其幅大抵同シ黑色ニシテ光輝アリ顛頂、額共ニ細毛ヲ疎生シ一見粒狀ヲナスカ如キモ高度ノ顯微鏡ニ照ストキハ細眼ノ網狀溝ヲ有ス大眼ハ橢圓形ニシテ又

細毛ヲ生シ小眼ハ三角狀ニ排列シ側位ノモノハ大眼ノ内縁ニ接スルコト前種ニ於ルカ如シ  
觸角 十一節ヨリ成リ唇基板ノ隆起線ノ兩側ヨリ起ルコト前種ニ異ル所ナシ觸角ノ全部黑色ヲ呈シ  
莖節ハ中位ノ小眼ニ達シ柄節ハ却テ第一繫節ヨリ短ク繫節ハ第二、第三ト遞次其長サヲ減シ第三ハ  
梨子狀ヲナシ第四ハ殆ント球形ヲナス次位ノ五節ハ膨大シテ判然タル棍棒ヲ形成シ末節ハ圓錐形ヲ  
ナス

口器 上顎ハ三齒ニ分レ下顎鬚ハ二節、下唇鬚ハ一節ヨリ成ルコト前種ニ同シ

胸部 黑色ニシテ光澤アリ細毛ヲ生ス前胸背板ノ狀態ハ前種ニ同シク中胸前板ト後胸後板トハ共ニ  
網狀ノ隆起線ヲ有シ網眼ハ多角形ニシテ凹陷ス中胸後板ハ針痕ヲ印シ半圓形ニシテ又其周邊ニ沿ヒ  
テ放線狀ノ溝ヲ有ス後胸ハ中胸前板ト同一ノ紋理ヲ有スルモ少シク疎大ナリ

翅 僅ニ黑暈ヲ帶ヒ前翅ノ前脈ハ枝脈ノ三分一ニ充タス外脈ハ長クシテ翅ノ外縁ニ近ツキ漸次消失  
ス翅ノ外縁ニ沿ヒテ生スル毛ハ寧ろ短シ

肢 常形ニシテ基節ハ黒ク腿節ハ内外兩縁ニ沿ヒテ暗色ヲ帶ヒ其他ハ總テ黃褐色ヲ呈ス跗節ハ中肢  
ヲ除キ脛節ヨリ長ク脛節ノ棘ハ前種ニ同シ

腹部 無柄倒卵形黑色ニシテ光澤ヲ有シ細毛ヲ疎生シ胸部ヨリ少シク長シ其第二環節ノ長大ナルコ  
ト及縦溝アルコトハ前種ニ同シ

(雄)

本種ノ材料二十餘個中全ク雄ヲ闕ク

(三) ずかむしくろたまごばち (新稱) 第一板、第二板、第三板、第四板、  
第五板、第七板、共ニ第三圖

學名 *Telonomus* sp.

分科 卵蜂科

體長

♀ 一・九八厘  
♂ 一・九五厘

(雌)

宿主

二化螟虫卵、三化螟虫卵  
滋賀縣、石川縣、福井縣、廣嶋縣、嶋根縣、山形縣、長崎縣  
新潟縣、大阪府、愛知縣、奈良縣、德嶋縣、岡山縣

產地

頭部

横位ニシテ胸部ノ最モ潤大ナル部ト其幅畧々相同シ黑色ニシテ光澤ヲ有シ顛頂、額ハ網狀ノ溝ヲ有シ細毛ヲ疎生ス大眼ハ橢圓形ニシテ細毛ヲ生シ小眼ハ三角形ニ排列シ側位ノモノハ大眼ノ内側ニ接スルコト前種ノ如シ

觸角

黑色ニシテ十一節ヨリ成リ起點ハ前種ニ同シ莖節ハ殆ント中位ノ小眼ニ達シ柄節ハ第一繫節ヨリモ大形ニシテ長ク繫節中第一、第二ハ同長、第三ハ第二ヨリ短ク第四ハ極メテ短ク横位ヲナス棍棒狀部ハ五節ヨリ成リ繫節ヨリ判然ト區別スルヲ得ヘシ其末節ハ圓錐形ヲナス

口器

上顎ハ三齒ヲ有シ下顎鬚ハ二節、下唇鬚ハ一節ヨリ成ルコト前種ニ同シ

胸部

卵圓形、黑色ニシテ光澤ヲ有シ細毛ヲ生ス前胸ノ狀態ハ前種ニ同シク中胸前板ハ頭部ト同シク網狀溝ヲ有シ中胸後板ト後胸後板トハ共ニ針痕ヲ有ス

翅

透明ニシテ殆ント無色、前翅ノ前脈ハ殆ント枝脈ノ一半ニ近ク外脈ハ枝脈ヨリ長キモ遙ニ翅ノ外縁ヨリ遠ク消失ス

肢

淡黃褐色ナルモ基節、腿節ト跗節ノ外側及跗節ノ末節ハ暗暈ヲ帶フ三肢共ニ跗節ハ脛節ヨリ長シ脛節ノ棘ハ前二種ト其狀態ヲ同フス

腹部

胸部ト其長サ畧々相均シ無柄倒卵形ニシテ後端ハ恰モ截斷シタルカ如ク黑色ニシテ光澤ヲ有シ毛ヲ疎生ス第二環節ノ長大ナルコト及縱溝ヲ有スルコトハ前二種ニ同シ

〔雄〕

本種ニ於テハ雄ハ雌ニ比シ觸角ノ狀態ヲ異ニスルノミナラス着色ニ於テモ大ニ異リ一見雌雄ヲ判別スルコトヲ得ヘシ左ニ識別ノ要點ヲ記ス

觸角ハ十二節ヨリ成リ柄節ハ第一繫節ヨリモ大形ニシテ第三繫節ハ著シク前位ノ二節ヨリモ長ク次ニ列スル七節ハ珠數狀ヲナス其末節ハ長クシテ圓錐形ヲナス觸角ノ柄節及次位ノ諸節ハ暗暈ヲ帶ヒ他ハ黃褐色ヲ呈ス頭部中大眼、顛頂ヲ除キ胸部中背面ヲ除キ又腹部ヲ除キ其餘ハ總テ黃褐色ヲ呈ス而シテ大眼、顛頂、腹部ハ殆ント黑色ナリ

肢ハ淡黃褐色ナルモ跗節ノ末節ハ微ニ暗暈ヲ帶フ

〔四〕

くろあしぐさがめたまごばち (新種)

第一板、第二板、第三板、第四板、第五板、第六板、共ニ第四圖

學名 *Asotenus nigripodius*, Nov. gen.; Nov. sp.

分科 卵蜂科

宿主 椿象卵

產地 東京西ヶ原

體長 四厘

♀ 三・八厘

〔雌〕

頭部 横位ヲナシ胸部ノ最モ廣濶ナル部ト其幅畧々相均シク黑色ニシテ光澤ヲ有シ顛頂、額ハ毛ヲ

生シ細微ナル針痕ヲ有ス大眼ハ橢圓形黝色ニシテ又細毛ヲ密生ス小眼ハ三角狀ニ並列シ其側位ノモノハ大眼ノ内縁ヲ少シク離レテ存ス

觸角 十一節ヨリ成リ起點ハ前三種ニ同シ黑色ニシテ莖節ハ中位ノ小眼ニ達セス柄節ハ長形ナルモ

第一繫節ト其長サ相均シク第二繫節ノ長サハ第一ノ三分二ニ該リ第三繫節ハ横位ヲナス棍棒狀部ハ六節ヨリ成リ末節ハ圓錐形ヲナス

口器 上顎ハ三齒ヲ具ヘ下顎鬚ハ二節、下唇鬚ハ一節ヨリ成ルコト前三種ニ同シト雖モ下唇鬚ハ頗ル短小ナリ

胸部 肥大シ殆ント球形ニシテ細毛ヲ密生シ黑色ニシテ光澤アリ前胸ノ狀態ハ前三種ニ同シク中胸前板ハ網狀ノ隆起線ヲ有シ網眼ハ不正ナル多角形ヲナス中胸後板ハ疎大ナル針痕ヲ印シ半圓形ヲナシ其周邊ニ沿ヒテ放線狀ノ條痕アリ後胸後板モ亦同一ノ條痕ヲ有ス

翅 濶大ナリ前翅ニ於テ殊ニ然ルヲ見ル其長徑ト横徑ノ比ハ前翅ニ於テ七ト三ノ如シ前脈ハ極メテ短ク枝脈ノ三分一ニ過キス外脈ハ長ク外縁ノ毛ハ短シ

肢 尋常ニシテ基節、第一回轉節、腿節(末端ヲ除キ)、脛節(末端及内側ヲ除キ)ハ褐色ヲ呈シ其他ハ總テ黃褐色ナリ跗節ハ中肢ヲ除キ脛節ヨリモ長ク脛節ノ棘ハ前三種ト同一ノ狀態ヲ呈ス

腹部 肥大ニシテ廣濶ナル卵圓形ヲナス無柄ニシテ黑色ヲ呈シ光澤ヲ帶フ毛ヲ疎生シ第二環節ハ大形ナレトモ前三種ノ如ク長カラス其縱横徑殆ント相稱ヘリ第一、第二環節ニハ縱溝アレトモ第二環節ノモノハ往々分枝スルヲ以テ前三種ト異レリ

(雄)

形狀雌ト大差ナシ唯觸角ニ於テ著シキ區別ヲ見ルノミ

觸角ハ十二節ヨリ成リ柄節ハ梨子狀ニシテ第一繫節ヨリモ短ク第一、第二ノ兩繫節ハ短キ圓筒狀ヲナシ其長サ相均シク第三繫節ハ前位ノ繫節ヨリ少シク短クシテ橢圓形ヲナス爾餘ノ七節ハ珠數狀ヲナシ末節ハ長クシテ圓錐形ヲナス

按スルニ本種ハ本集ニ掲ケタル他ノ五種ノ卵蜂科ノモノト共ニ卵蜂科中第五亞科セリを以て(1)

celioninae)ニ屬シ同亞科中ノ一族てれのみニ(『Telonimini』)中ニ收ムヘキモノトス今「ダラ、トール」氏カ三年前ニ編纂セシ全世界膜翅類目錄中卵蜂科ノ部ニ就キテ調査スルニ前ニ述ヘタルてれのみニ一族中ニハ八屬アリあれり也 (Neria)、(ヘミシオサ (Hemistius)、(トリモラス (Trimorus)、(ふあにゆうラス (Thamirus))、てれのーササ (Telenomus)、(トリモラス (Trisolens))、(いそるかす (Disolens))、(あらごふあがす (Aradoplagnus))即チ是ナリ今本種ノ形質ヲ右八屬ノ特徴ト比較スルニあれり也屬ニテハ觸角ノ諸節中末位ノ八節ヲ以テ棍棒狀部ヲ形成シヘミシオサ屬ニテハ棍棒狀部ハ四節ヨリ成ルヲ以テ本種ノ如ク棍棒狀部ノ六節ヨリ成ルモノト異リ又トリモラス、(あらごふあがす)ノ二屬ハ雌、雄共ニ觸角ハ十二節ヨリ成ルヲ以テ本種ノ如ク雌ノ觸角ノ十一節ヨリ成ルモノニ同カラスてれのみサ屬ニ於テハ側位ノ小眼ハ大眼ニ接シ棍棒狀部ハ五節ヨリ成ルト雖モ本種ノ小眼ハ大眼ニ近キモ大眼ニ接スルコトナク棍棒狀部ノ節數多キハ異屬ナルヲ示シふあにゆうラス屬ニテハ腹部著シク長ク頭胸兩部ヲ合シタル長サ以上ニ達スレトモ本種ニテハ其腹部ハ遙ニ頭胸兩部ノ和ニ及ハサルヲ以テ同屬ト云フヘカラスでいそるかす、トリモラスノ二屬ハ孰レモ中胸ノ背面ニ縱溝アリテ甲ハ其溝數二、乙ハ三ナリ然ルニ本種ハ中胸背面ニ溝ヲ有スルコトナキヲ以テ屬ヲ異ニスルヤ明ナリ然レトモ觸角ノ棍棒狀部ヲ形成スル節數其他ノ條項ニ於テ本種ハ大ニトリモラスノ類シ中胸ノ背面ニ縱溝ナキニヨリ區別スヘキヲ以テ新ニあそるかす (Asoleus)ノ名ヲ命シ茲ニ新屬ヲ創設スルコト、セリ

(五) はらながあぶたまごばち (新稱)

第一板、第二板、第三板、第四板、第五板、第六板、第七板、共ニ第五圖

學名 未詳

分科 卵蜂科

宿主 虻卵



產地 東京西ヶ原

體長

♂ 三・五厘乃至二・八厘  
♀ 二・二厘乃至二・四厘

〔雌〕

頭部

横位ニシテ僅ニ胸部ヨリ其幅廣ク黑色ニシテ光澤ヲ有シ網狀ノ溝ヲ具ヘ細毛ヲ生ス大眼ハ橢圓形ニシテ又細毛ヲ有シ小眼ハ三角狀ニ排列シ側位ノモノハ大眼ノ内縁ニ接ス

觸角

十一節ニシテ唇基板ニ起ルコト前四種ニ同シ莖節ノ根基部、柄節ノ末端ハ黃褐色ヲ呈スルモ其他ハ黑色ヲ呈シ莖節ハ中位ノ小眼ニ達シ柄節ハ梨子狀ニシテ著シク第一繫節ヨリ長ク第一繫節ハ長形ヲナシ第二ハ第一ヨリモ短ク第三、第四ハ殆ント球形ヲ呈ス棍棒狀部ハ五節ヨリ成リ末節ハ卵

圓形ヲナス

口器

上顎ハ三齒ヲ有シ下顎鬚ハ二節、下唇鬚ハ一節ヨリ成ルコト前四種ニ同シ

胸部

橢圓形黑色ニシテ光澤ヲ有シ毛ヲ生ス前胸ノ狀態ハ前四種ニ異ルコトナク中胸前板ハ頭部ト同様ニ網狀ノ溝ヲ具ヘ中胸後板ハ半圓形ニシテ針痕ヲ印シ邊緣ニハ放線狀ノ溝アリ後胸ハ稍々疎大ナル針痕ヲ有ス

翅

前翅ノ前脈ハ凡ソ枝脈ノ七分五ニ位シ外脈ハ長ク外縁ノ毛ハ前諸種ニ比スレハ翅ノ大サニ對シテ長シ

肢

通常ノ大サニシテ基節ノ全部、腿節ハ前後兩端ヲ除キ前肢、中肢ノ脛節ノ外側、後肢脛節ノ内

外兩側、三肢トモ跗節ノ末節ハ暗褐色ヲ呈スレトモ他ハ黃褐色ヲ呈ス跗節ハ中肢ヲ除キ脛節ヨリ長シ脛節ノ棘ハ總テ前四種ノ狀態ニ同シ

腹部

無柄ニシテ長形ヲ呈シ頭胸兩部ヨリモ長シ紡錘形ニシテ黑色ヲ呈シ光澤ヲ有シ毛ヲ疎生ス第

一環節ハ背面ニ瘤狀物ナク第二環節ハ顛ル長クシテ其長徑ハ横徑ノ殆ント二倍ニ達ス第一環節ト第二環節ノ前部ニハ縦溝アリ

(雄)

雄ハ腹部倒卵形ヲナスヲ以テ一見雌ト區別スルコトヲ得ヘク又觸角ノ狀態、全身ノ着色ニ至テモ大ニ異ルモノトス

頭部中顛頂ハ黑褐色ニシテ大眼ハ黑色ヲ呈ス

觸角ハ十二節ニシテ黃褐色ヲ呈スルモ柄節ヨリ末ノ諸節ハ多少暗色ヲ帶ヒ柄節ハ第一繫節ヨリ長ク第二繫節ハ第一、第二ヨリモ短ク第三ハ第一ト同長ニシテ爾餘ノ七節ハ珠數狀ヲナシ末節ハ最モ長ク前節ノ二倍アリテ長卵圓形ヲナス

胸部ノ背面ハ暗褐色ヲ呈スルモ腹面ハ漸ク黃褐色ニ變ス

肢ハ蜜黃色ヲ呈ス

腹部ハ倒卵形、黑色ニシテ光澤アリ疎毛ヲ生ス雌、雄ノ長サ大ニ異ルハ主トシテ腹部ノ形ノ異ルニ由ル按スルニ本種ハ腹部長クシテ一見ふあにゆうらす屬ニ收ムヘキモノ、如シト雖モ雄ノ觸角ノ第二繫節ハ第一繫節ヨリモ短小ナルト雌ノ觸角ノ第三、第四繫節ハ擴張スルコトナク判然ト棍棒狀部ヲ區別スルヲ得ヘキヲ以テ該屬ト異ナル所アリ且雄ノ腹部ハ著シク短縮スルモ該屬ノ特徵中更ニ雌、雄ノ腹部ヲ異ニスルコトヲ說キタルモノナキヲ以テ未タ同屬ト云フコト難シ然レトモ該屬ノ標品ヲ得テ諸種ヲ對比スルノ機會アラハ或ハ該屬ノ特徵ヲ改正シテ同屬中ニ收ムヘキモノトスヘキヤ未タ知ルヘカラス今姑ク疑ヲ存シ後日ノ研究ヲ待テ所屬ヲ定メントス

(六)

こぶだかあぶたきごぼち (新稱)

第一板、第二板、第三板、第四板、第五板、第六板、第七板、共ニ第六圖

學名 未詳

分科 卵蜂科

宿主 虻卵

產地 東京西ヶ原

體長

♂ 三・七厘乃至四厘  
♀ 二・六厘乃至三厘

(雌)

頭部

横位ヲナシ僅ニ胸部ヨリ幅廣ク黑色ニシテ光澤ヲ有シ毛ヲ生ス大眼ハ殆ント裸出シ小眼ハ三角狀ニ排列シ側位ノモノハ大眼ノ内縁ニ近シト雖モ接着スルコトナシ顛頂ハ網狀ノ溝ヲ有シ網眼ハ不正多角形ヲナス

觸角

十一節ヨリ成リ唇基板ヨリ起ルコト前五種ノ如シ莖節ハ中位ノ小眼ニ達セス両端ハ赤褐色ヲナセトモ中央ハ黑色ヲ呈ス柄節ハ第一繋節ヨリ長ク基部ハ暗色ヲナシ其他ハ黃褐色ヲ呈ス四個ノ繋節ハ暗褐色ニシテ遞次其長サヲ減シ其第四節ハ殆ント球形ヲナス棍棒狀部ハ五節ヨリ成リ又暗褐色ヲ呈ス

口器

上顎ハ三齒ヲ有シ下顎鬚ハ二節ヨリ成リ下唇鬚ハ一節ヨリ成ルコト前五種ニ同シ

胸部

畧倒卵形ニシテ黑色、光澤ヲ有シ毛ヲ生ス前胸ノ狀態ハ又前五種ニ同シ中胸前板ハ顛頂ト同一ノ網狀溝ヲ有シ中胸後板ハ半圓形ニシテ針痕ヲ印シ周縁ニ沿ヒテ放線狀ノ溝アリ後胸ハ又針痕ヲ有ス

翅

殆ント透明無色ニシテ前翅ノ前脈ハ枝脈ノ一半ヨリモ短ク外脈ハ長クシテ漸次ニ消滅ス

肢

常形ニシテ基部、腿節ハ中部ノ過半、脛節ノ外側、跗節ノ末節ハ暗褐色ナレトモ其他ハ黃褐色ヲ呈ス

腹部 無柄ニシテ甚タ長ク頭胸兩部ヨリモ長シ卵圓披針形ニシテ黑色、光澤ヲ有シ毛ヲ疎生シ第一環節ノ背面ニハ著大ナル瘤狀突起ヲ有ス此突起ノ根基ト第二環節ノ前縁ニハ縱溝ヲ具ヘ第二環節ハ腹部中最モ大形ナルモ其縱徑ト横徑ト相稱ヘリ

(雄)

雌雄ノ差別顯著ナルコト前種ノ如シ

觸角ハ十二節ヨリ成リ黃褐色ナルモ背面ハ暗色ヲ帶フ柄節ハ第一繫節ヨリモ短小ニ、第二繫節ハ第一、第三ヨリモ著シク長ク第一繫節ト第三繫節ハ殆ント全長ナルモ第一ノモノハ倒卵形ヲナシ第二ノモノハ橢圓形ヲナス爾餘ノ七節ハ珠狀ヲナシ末節ハ長シト雖モ前節ノ二倍ニ達スルコトナシ肢ハ雄ニ比シテ其色淡ク基節ト雖モ僅ニ暗色ヲ帶フルニ過キス腹部ハ倒卵形ニシテ第一環節ニ瘤狀突起ヲ闕ク

按スルニ本種ハ前種ニ類スルモ雄ノ觸角ノ第二繫節ノ第一繫節ニ比シ長キコトハ前種ヨリモ却テふあにゆうらす屬ニ近シ然レトモ雌雄トモ腹部ノ第二節ハ素ヨリ他ノ諸節ヨリ長キニ拘ラス其長サ幅ノ二倍ニ達セサルコトハ前種ヨリモふあにゆうらす屬ト異ル所アリ要スルニ本種モ亦姑ク疑ヲ存シ後日ヲ俟テ所屬ヲ明ニセントス

(七) *ずあむしあかたまごばち* (新稱) 第一板、第二板、第三板、第四板、第五板、第七板、共ニ第七圖

學名 未詳

分科 小蜂科

宿主 粟ノ螟虫卵、稻ノ二化螟虫卵、三化螟虫卵

產地 福井縣、滋賀縣、大分縣、廣嶋縣、長野縣、山口縣、嶋根縣、山形縣、愛知縣、佐賀縣、香川縣、長崎縣、熊本縣、栃木縣、宮城縣、

大阪府、兵庫縣、山梨縣、奈良縣、德島縣、岡山縣、鳥取縣、和歌山縣、鹿兒嶋縣

體長

♂ ○●九厘乃至一・二五厘  
↓ ○●八三厘乃至一厘

(雌)

頭部 横位ヲナシ胸部ヨリモ幅廣ク大眼、小眼ノ外ハ黃褐色ヲ呈シ額頂、額ニハ波狀ノ横條ヲ並列シ比較的小數ノ硬キ毛ヲ生ス但シ此紋理ハ強度ノ顯微鏡ヲ用フルニアラサレハ見ルコト難シ大眼、小眼ハ共ニ朱色ニシテ三個ノ小眼ハ極メテ低キ三角形ニ排列シ線ヲ横ニ畫シテ三小眼ヲ連ルトキハ頂角ハ百八十度ニ近シ

觸角 六節ヨリ成リ唇基板上ニ起リ顛頂ト全色ヲ呈シ莖節ハ短クシテ中位ノ小眼ニ達セサルコト遠シ柄節ハ倒卵形ニシテ第一繫節ハ極メテ短小ナリ輪狀節ト稱スルモノ即チ是ナリ第二、第三繫節ハ密接シ棍棒狀部ハ一節ヨリ成ル而シテ棍棒狀部ハ柄節ニ總テノ繫節ヲ加ヘタル和ヨリモ長シ

口器 上顎ハ末端ニ五齒ヲ並列シ五齒中、中央ノモノハ他ノモノヨリモ長大ナリ又別ニ内方ニ離レテ一齒アリ下顎鬚、下唇鬚ハ發達微弱ニシテ僅ニ一節ヨリ成ル殊ニ下唇鬚ハ僅ニ疣狀ノ突起ヲナスニ過キス

胸部 前胸ハ小蜂科ノ常套ヲ襲ヒ中胸前板、側葉ノ内側、中胸後板ハ暗色ヲ帶フルモ他ハ黃褐色ヲ呈シ背面ニハ網狀ノ紋理アリテ其網眼ハ前後ニ長シ但シ強力ノ顯微鏡ヲ用フルニアラサレハ見ルコト難シ又中胸前板ニハ二對ノ棘ヲ具ヘ後板ニハ其一ニ双ヲ有ス左右ノ側葉亦各々二個ノ棘ヲ存ス

翅 前翅ハ短濶ニシテ其根基部ハ暗暈ヲ帶ヒ外脈ヲ闕キ枝脈ノ外端ハ翅ノ長徑ノ半ニ止リ前脈ハ枝脈ト畧々同長ナリ翅ノ上面ニ於テハ亞前脈ヨリ前脈ノ末ニ至ルマテ六個ノ長毛ヲ有ス但シ翅ノ表裏

ニ位スル毛ヲ判知スルニハ強度ノ顯微鏡ヲ用フルヲ要ス外縁ノ毛ハ比較的ニ短シ後翅ハ狹長ニシテ脈ノ外端ハ翅ノ全長ノ半ニ達シ茲ニ生スル鈎ハ二個アリテ特別ナル突出物上ニ密ニ相並ヘリ後縁ノ毛ハ頗ル長ク翅ノ幅ノ二倍ヲ超過ス

肢 常形ニシテ黃褐色ヲ呈シ基節ト腿節ハ僅ニ暗色ヲ帶フ脛節ノ棘ハ前肢ニ於テハ之ヲ闕キ跗節ハ脛節ヨリ長カラスシテ一見三節ヨリ成ルカ如シ

腹部 長形、無柄、暗褐色ヲ呈シ環節ノ大サニ大差ナク産卵器ハ腹面ノ溝ヨリ出ツ

(雄)

雄ハ概シテ雌ヨリモ小形ナレトモ本種ノ如キ大小一定セサルモノニ於テハ觸角ノ状態ヲ以テ判知スルノ外確乎タル標準ナシ尤モ前翅ノ基根ニ近キ暗暈ハ雄ニ於テハ概子淡キニ似タリ

觸角ノ莖節、柄節、第一繫節ハ雌ト異ル所ヲ見ス第二繫節ハ第三繫節ト畧々同長ニシテ雌ノモノヨリ長ク且第三繫節ニ多少癒合セリ第三繫節ハ殆ント末節ト合一シ共ニ細長ナル棍棒狀部ヲ形成スルカ如キ觀ヲ呈ス殊ニ雄ノ觸角ニ於テ雌ト異ル所ハ第二繫節以末ニ長毛ヲ叢生スルコト是ナリ

○引用書目

G. G. Dalla Torre : Catalogus Hymenopterorum, vol. V. Chalcididae & Proctotrupidae.  
J. O. Westwood : An Introduction to the Modern Classification of Insects.  
A. B. Gounstock : A Manual for the Study of Insect.  
A. S. Packard : A Text-Book of Entomology.  
J. Emms : Synopsis der Zoologie.  
J. G. C. Ratzeburg : Die Ichneumonien der Forstinsecten.  
W. H. Ashmead : Bulletin of the United States National Museum, No. 45; Monograph of

The North American Proctotryphae.  
Entomologist Monthly Magazin, vol. X.



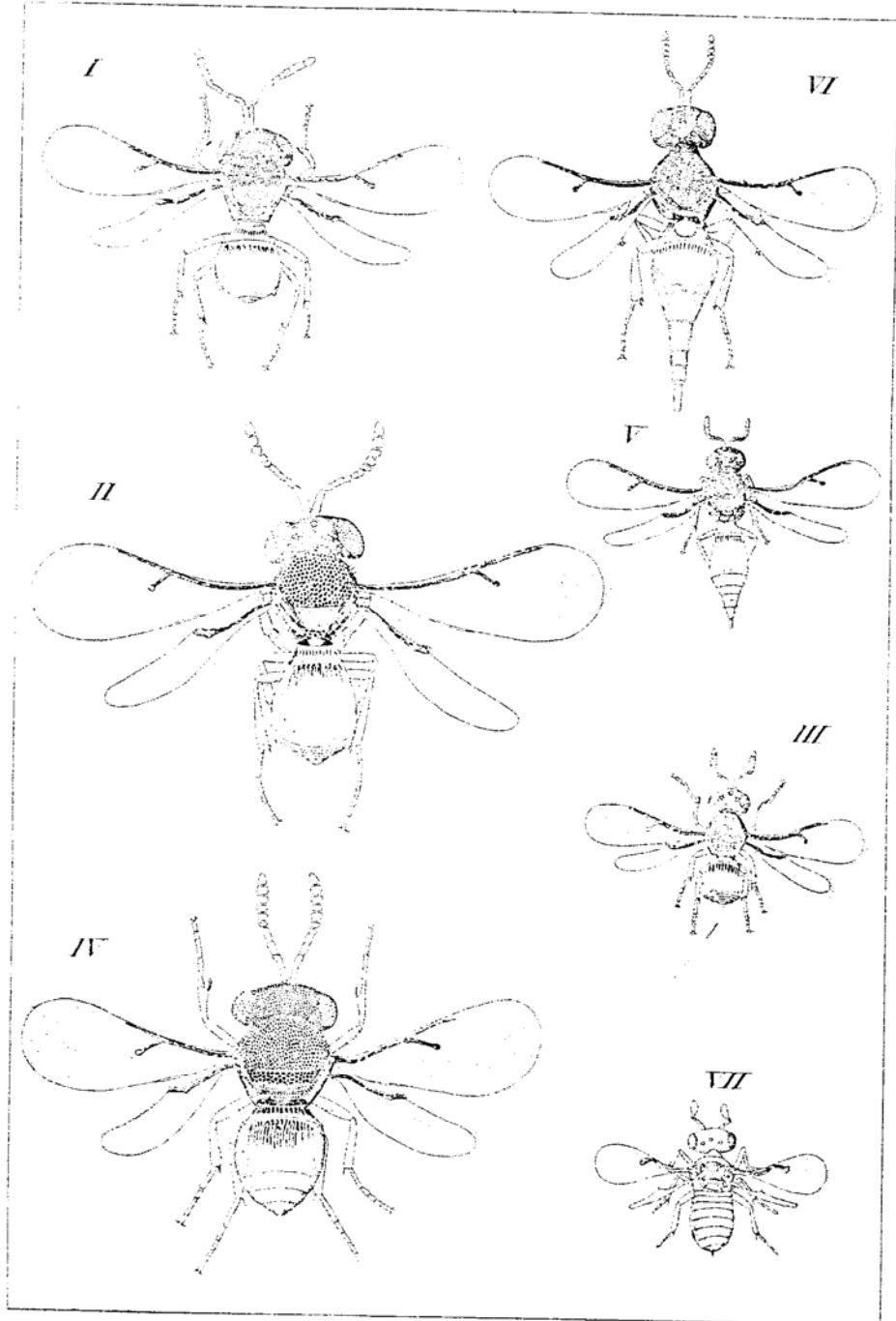


第一版圖解

(二十五倍)

- 第一圖 あかあしくさがめたまごばち
- 第二圖 くろもくくさがめたまごばち
- 第三圖 ずねむしくろたまごばち
- 第四圖 くろあしくさがめたまごばち
- 第五圖 はらながあぶたまごばち
- 第六圖 こぶだかあぶたまごばち
- 第七圖 ずねむしあかたまごばち

版 第



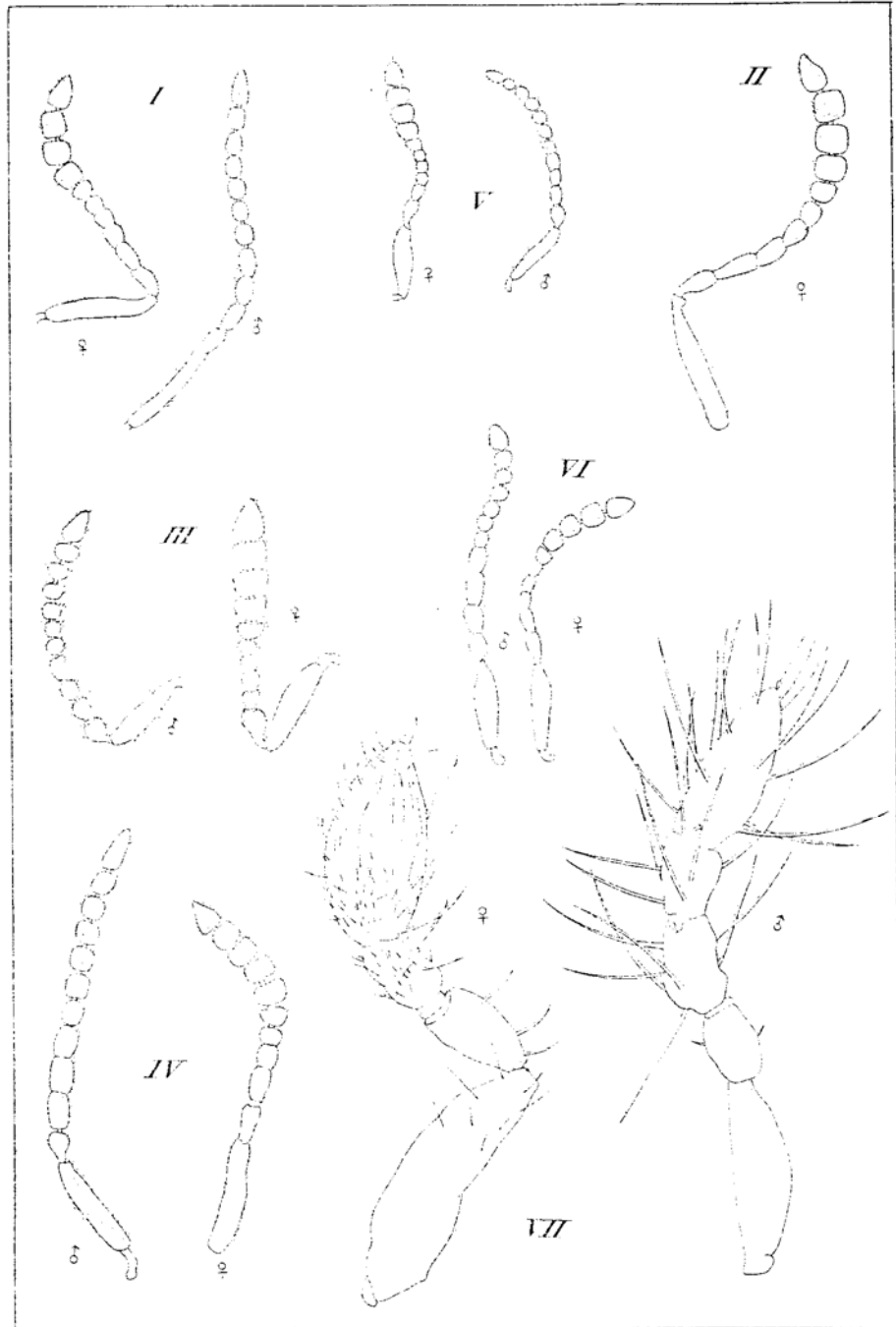
圖原川中

## 第二版圖解

### 觸角ノ比較 ♂雄十雌

- |     |               |          |
|-----|---------------|----------|
| 第一圖 | あかめしくさがめたまごばち | (六十五倍)   |
| 第二圖 | くろもくくさがめたまごばち | (全上)     |
| 第三圖 | ずぬむしくろたまごばち   | (全上)     |
| 第四圖 | くろあしくさがめたまごばち | (全上)     |
| 第五圖 | はらながあぶたまごばち   | (全上)     |
| 第六圖 | こぶだかあぶたまごばち   | (全上)     |
| 第七圖 | ずぬむしあかたまごばち   | (二百七十八倍) |

版 二 第



圖原川中

### 第三版圖解

#### 口器ノ比較

第一圖	あかあしくさがめたまごばち	(百六十七倍半)	(甲) 上顎	(乙) 下唇	(丙) 下顎
第二圖	くろもくくさがめたまごばち	(百六十七倍半)	(甲) 上顎	(乙) 下顎及下唇	
第三圖	ずぬむしくろたまごばち	(二百七十八倍)	(甲) 上顎	(乙) 下顎及下唇	
第四圖	くろあしくさがめたまごばち	(百六十七倍半)	(甲) 上顎	(乙) 下顎及下唇	
第五圖	はらながあぶたまごばち	(二百七十八倍)	(甲) 上顎	(乙) 下顎及下唇	
第六圖	こぶだかあぶたまごばち	(二百七十八倍)	(甲) 上顎	(乙) 下顎及下唇	
第七圖	ずぬむしあかたまごばち	(二百七十八倍)	(甲) 上顎	(乙) 下顎及下唇	

版 三 第

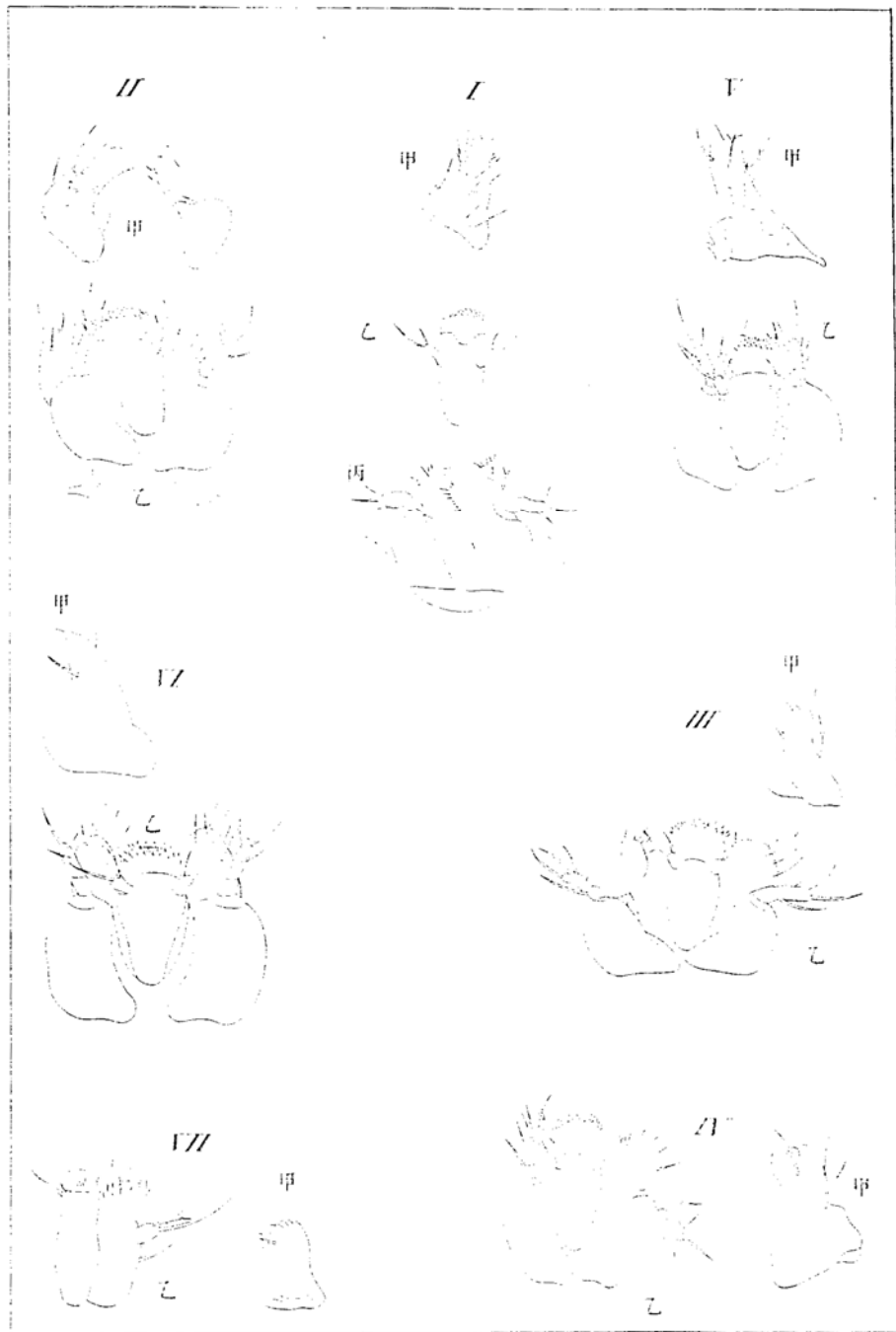


圖 原 用 中

第四版圖解

翅ノ比較 (六十五倍)

第一圖 あかあしくさがめたまごばち

第二圖 くろもくくさがめたまごばち

第三圖 ずねむしくろたまごばち

第四圖 くろあしくさがめたまごばち

第五圖 はらながあぶたまごばち

第六圖 こぶだかあぶたまごばち

第七圖 ずねむしあかたまごばち (シキ) 後翅ノ棘(二百七十八倍)

版 四 第

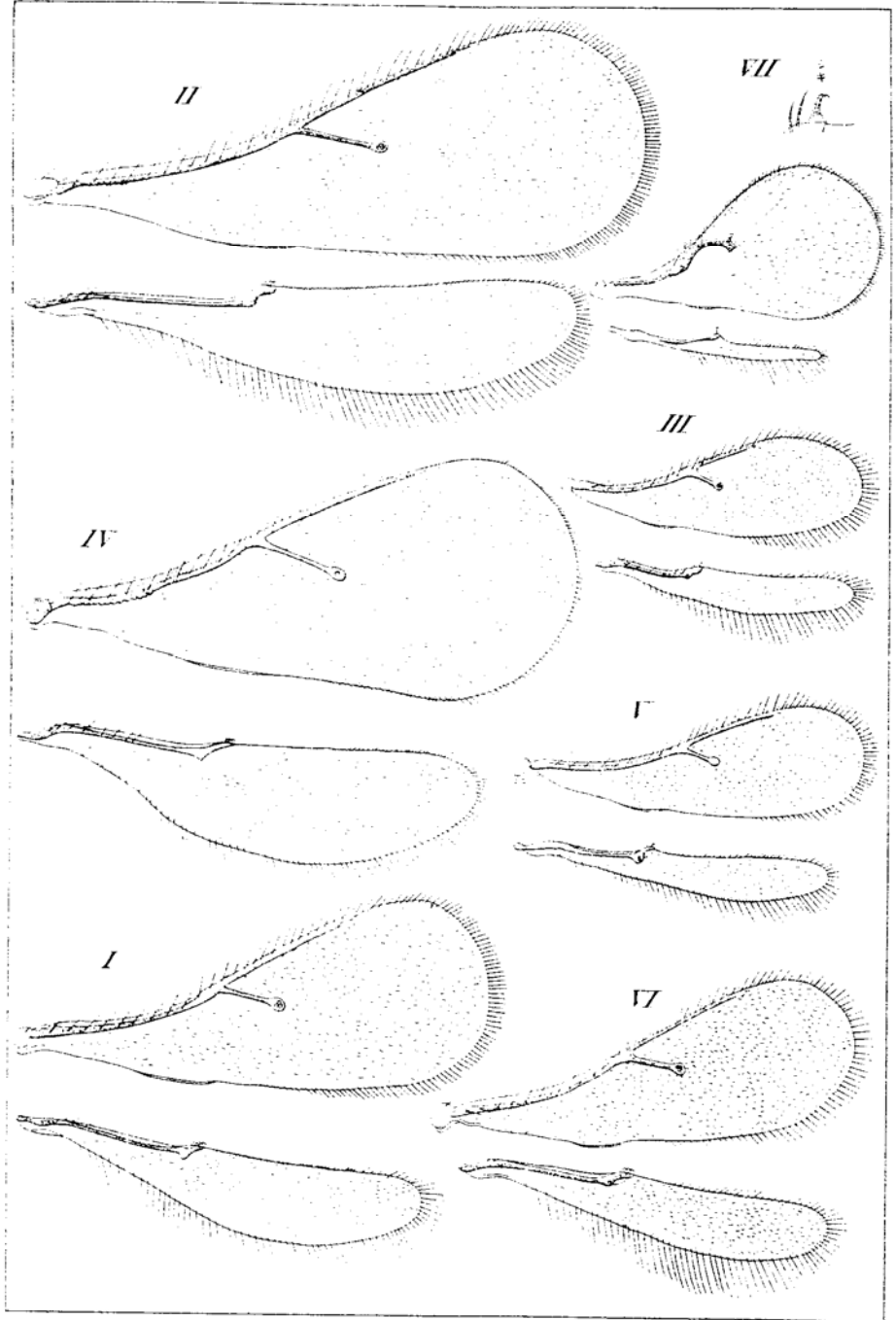


圖 原 川 中



第五版圖解

前脈ト枝脈ノ比較 (ア)亞前脈(ゼ)前脈(シ)枝脈(グ)外脈(二百七十八倍)

第一圖 あかあしくさがめたまごばち

第二圖 くろもくくさがめたまごばち

第三圖 ずるむしくろたまごばち

第四圖 くろあしくさがめたまごばち

第五圖 はらながあぶたまごばち

第六圖 こぶだかあぶたまごばち

第七圖 ずるむしあかたまごばち

- (1)
- (2)
- (3)
- (4)
- (5)
- (6) 翅ノ上面ニアル脈上ノ長毛

版 五 第

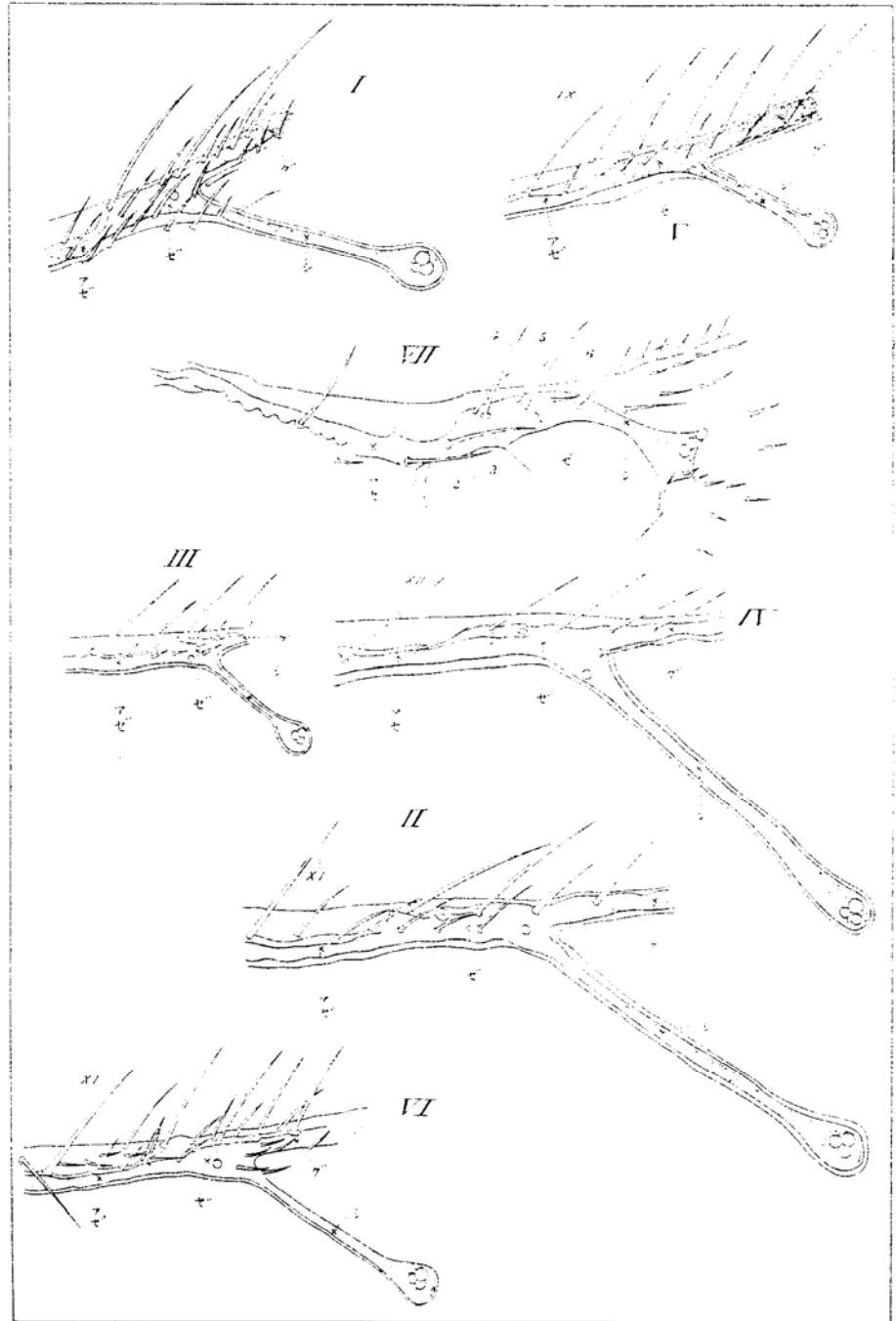


圖 原 川 中

第六版圖解

肢ノ比較 (六十五倍)

第二圖 くらもくくさがめたまごばち

(甲) 前肢 (乙) 中肢 (丙) 後肢

第四圖 くらあしくさがめたまごばち

(甲) 前肢 (乙) 中肢 (丙) 後肢

第五圖 はらながあぶたまごばち

(甲) 前肢 (乙) 中肢 (丙) 後肢

第六圖 こぶだかあぶたまごばち

(甲) 前肢 (乙) 中肢 (丙) 後肢

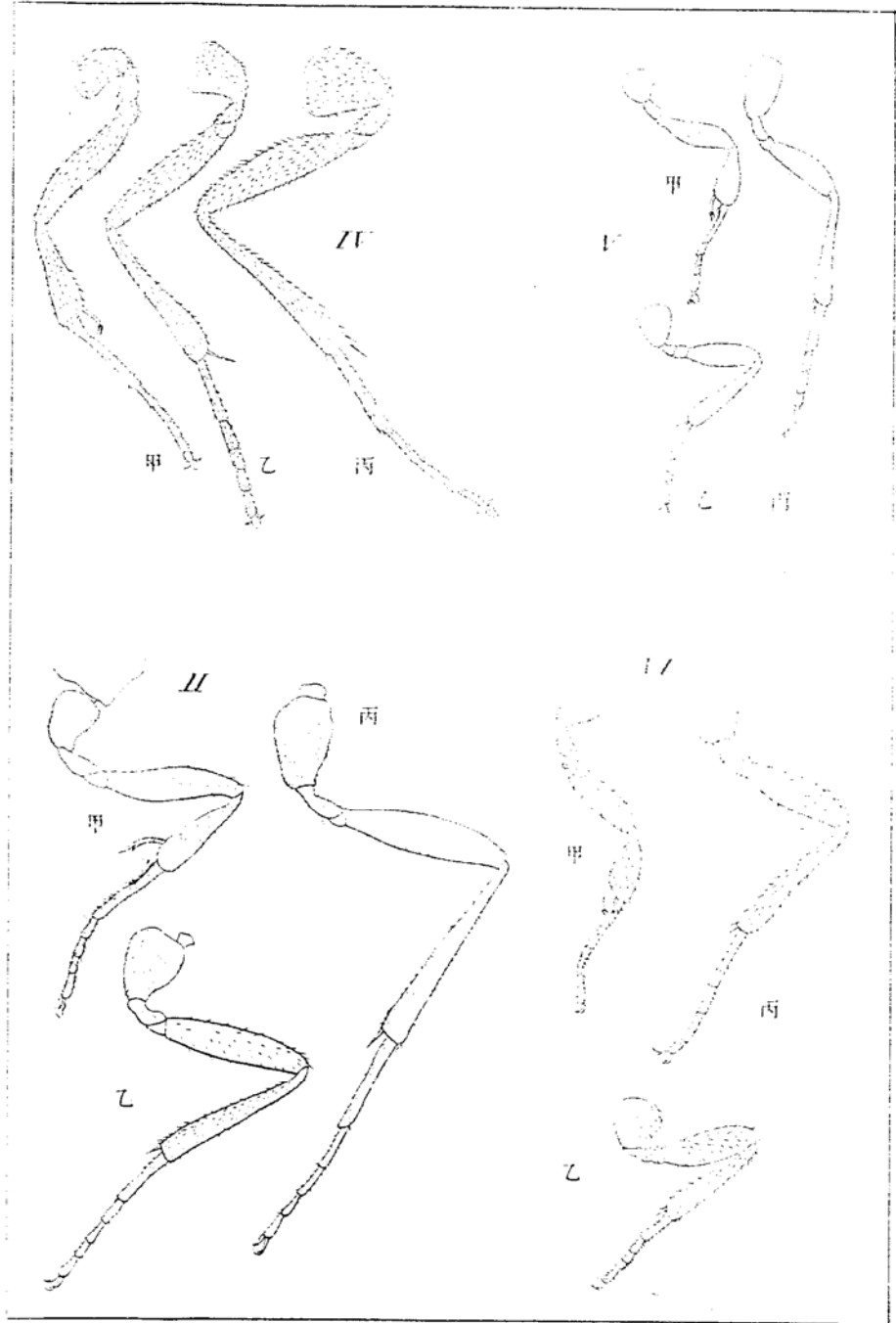


圖 系 川 中

第七版圖解

肢及腹部ノ比較

- 第一圖 あかめしくさがめたまごばち (六十五倍)  
 (甲) 前肢 (乙) 中肢 (丙) 後肢
- 第三圖 ずねむしくろたまごばち (六十五倍)  
 (甲) 前肢 (乙) 中肢 (丙) 後肢
- 第五圖 はらながあぶたまごばち (六十五倍)  
 (甲) 雄ノ腹部 (乙) 雌ノ腹部(腹面) (丙) 雌ノ腹部(背面)
- 第六圖 こぶだかあぶたまごばち (四十倍)  
 (甲) 雌ノ腹部(背面) (乙) 雌ノ腹部(側面) (丙) 雄ノ腹部
- 第七圖 ずねむしあかたまごばち 甲乙丙(百〇七倍半)丁(二百七十八倍)  
 (甲) 前肢 (乙) 中肢 (丙) 後肢 (丁) 跗節ノ末端 (ツ) 爪

版 七 第

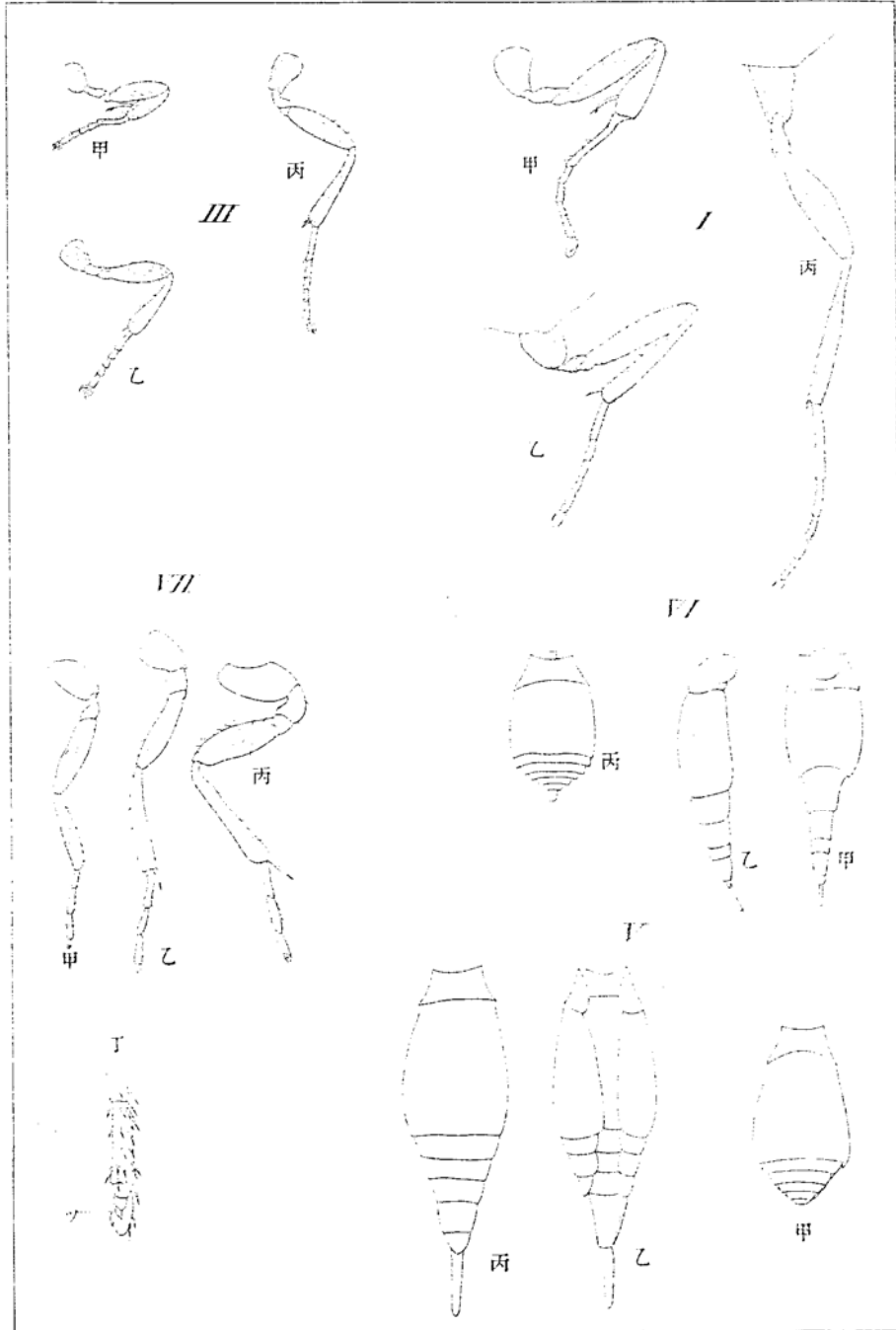


圖 原 川 中



明治三十三年三月三十一日印刷  
同 年四月二十九日發行

# 農商務省農事試驗場

(東京西ヶ原)

東京市日本橋區兜町二番地

東京印刷株式會社

印刷者 天野勝彦

東京市日本橋區兜町二番地

印刷所 東京印刷株式會社

東京市赤坂區溜池町一、二番地

賣捌所 大日本農會

右代表者

大日本農會幹事 小笠原金吾